

# 住

## 愛知県建設組合連合

# 伝統技能を継承した 優秀な技能者を数多く育成

### 三河、知多をメインに活躍

戦後の混乱が未だ収まらない昭和23年（1948）、建設業に携わる人の生活の安定と地位の向上に取り組むために組合が設立されました。設立当初の組合員は約3,000人、現在は約7,000人が加入しています。組合が取り扱う国民健康保険や労働保険のメリットもあり、職人が減少する中でも組合員数はほぼ横ばいで推移しています。

愛知県内全域に24の支部を持ち、当初は、知多や三河の職人を中心に組織されました。もともとは各地で行われていた大工の守り神とされる聖徳太子を祀る太子講を中心に繋がった組織で、いまも支部ごとに太子講が行われています。

最近では、伝統的な工法による和風住宅が都市部ではあまり見られなくなっていますが、三河地域ではそうした家を建てる人が今もたくさんいます。職人が減少している現実を前に、こうした伝統技能の継承も組合の大切な役割となっています。



愛知県、名古屋市、新聞社などの主催による「あいち住まいるフェア」で木工作の楽しさをアピール

### 技能五輪では金メダル獲得者も

名古屋市技能職団体連合会の設立と同時に参加した目的の一つが、技能功労者表彰や優秀技能者表彰の推薦を通じて人材の育成に繋げることでした。さらに平成元年（1989）には伝統建築研究会を発足させ、各地に残る伝統建築の見学や、岡崎城大手門の復元、安城市の丈山苑詩泉閣の建築などを手掛けてきました。

また優秀な技能者の育成、技能士資格の取得、伝統技術の継承などを目的に、17市町からの助成を得て平成19年（2007）、碧南市に木造建築、造園、建築板金、左官・タイル施工の4つの科を持つ愛知建連技能専門校を開校しました。

こうした地道な活動の結果、令和元年（2019）に開催された第57回技能五輪では組合で初めて建築大工職で金賞を獲得、技能日本一を競う技能グランプリではほぼ毎回、入賞者を輩出しています。

また、最近は大工職を目指す女性も増え、技能専門校造園科では女性が指導者として活躍しています。



2019年の技能オリンピックでは金賞を獲得